

未来へ引き継ぐ～ふるさと納税～

赤塚第二中学校 2年

佐々木 るちあ

ジュージャー（お肉を焼く音）

「おいしそう。」と私。

母は、「今日のお肉はね、ふるさと納税の返礼品でいただいたお肉なの。」

ふるさと納税って何？でも、まっいいか。美味そうだし。

私はこの夏休みに、区内にある東京都指定有形文化財の「旧粕谷家住宅」を見学に行った。旧粕谷家住宅は享保年間から約三百年もの間住宅として引き継がれてきたかやぶき屋根の古民家だ。家族構成の変化など、その時代に必要なリフォームを重ね、八年前まで実際に住人がいたというのが感慨深い。

案内の方の施設説明を聞く中で、建物を良い状態で保存するために、いかに人手や費用がかかるのを知った。その時、ふいに施設パンフレットの横に「ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング事業について」と書いてあるパンフレットに視線が落ちた。母が、「え？この建物はふるさと納税の対象になるの？」と驚いている。

ふるさと納税？以前ふるさと納税でもらったお肉を食べたなと思い出した。

案内の方が申し訳なさそうに、

「私達の区は返礼品になるような特産品がありません。でも東京都内で最古の建物や伝統的な行事など、次の世代につなげていくことが御礼だと思っています。昔の方が私達に引き継いでくれたことを、今度は私達があなたの様な若い世代につないでいかねばと思っています。」

最初の申し訳なさそうな口調が最後には強く誓いを立てるような口調に変わっていた。

自宅に戻り「ふるさと納税」について調べてみた。これは日本における寄付金税制の一つで、生まれ故郷や応援したい自治体に寄付ができ、税金の控除や寄付をした自治体の特産品を返礼品として受け取れる制度とあった。私の食べた肉が正にそれである。続けて昨今寄付獲得競争のため過度な返礼品競争が過熱しているとある。制度の設定当初、返礼品はなかったそうだ。

私の住む区ではふるさと納税制度本来の趣旨に立ち返り、と始めにうたっている。その令和元年の寄付総額は目標額を上回る額だ。おかげで今年文化財古民家保存の防火設備を設置できることになったそうだ。

私もいずれ納税者になる。その時、自分の生まれた故郷、ゆかりのある地に貢献し、応援したいと思うだろう。その時に「ふるさと納税」の制度を使いたい。施設案内の方がおっしゃった『次の世代へつないでいく』という言葉が胸に沸き響いた。

自分達の地域、日本の文化財・郷土芸能・伝統工芸の宝物を守るサポーターとして今自分にバトンが渡されたのだ！